磐城新聞

休刊　大祭、第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　二行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

共進會褒賞授與
二十六日午後一時から
受賞者の氏名

神谷農試分場の創立五週年記念園藝共進會は二十三日より四日間神谷分場並に元郡役所會議室に於て開催し盛會の旨既報したが二十六日午後一時より元郡役所に於て褒賞授與式を擧行したが入賞者左の如くである

△一等賞　（梨）平窪村金成庄助（同）信夫郡安太齋之助（柿）石城郡吉田榮助（同）北會津成田利雄（白菜）草野村飯島政雄（大根）下小川村箱崎伊之次郎（同）神谷村志賀新太郎（牛蒡）好間村大谷良助（葱）飯野村鹽氏治（馬鈴薯）信夫郡大規泰助（繩綿）河沼郡齋藤久一（蕪）相馬郡大竹農事實行組合（眞綿）西白河郡渡邊ミツ

△二等賞　（梨）平窪村金成八重子、信夫郡羽田喜七、平窪村鈴木貢、平窪村鈴木重次郎（柿）山田村木田善次郎、若松市二瓶徳治、草野村高木伊勢治北會津滋川忠八、下小川村白石龍夫（白菜）草野村馬上昭、飯野村山崎善吉（白菜）四村郡影山由吉（大根）下小川村箱崎ツルヤ、飯坂村佐藤勇、神谷村中野傳作、上小川村草野宗一（牛蒡）山田村下山田磐雄、郡山市橋本寅太郎（人參）飯野村鹽濱瑛（甘藷）小名濱町長瀬要（馬鈴薯）安積郡鈴木寅雄（里芋）夏井村酒井立直（薯蕷）草野村古市喜一（叺）河沼郡荒明翠（節絹）信夫郡鳥居ハマ（和紙）安達郡川崎信用購買販賣組合（奈良漬）大浦村酒井勇次郎（蒟蒻玉）神谷村榊原多傳（梨）信夫郡安西清吉（葱）北會津郡蔬菜生産販賣組合

△三等賞　（梨）平窪村根本久光外百二十四名

△四等賞　（梨）相馬郡菅野千代助外四百五十七名

兒童研究會の通俗映畫
…す平劇場

石城兒童研究會、郡方面共濟委員聯合主催家庭教育通俗映畫大會は明廿七日午後一時からと午後六時から晝夜二回に亘り平町平劇場に於いて開催するが小學兒童は勿論三歳への入場も觀迎するとプログラムは次の如くである

日本三景と日本名所、日本赤十字社第三十六回總會、子供の育て方、手を洗へ、女子の体育、秩父宮殿下アルプス御從走、人類の敵

平第一小學校少年赤十字團

平署の移轉
具体化
今縣會に提出

平町地方多年の懸案なる平警察署は狹隘且腐朽甚だしきため明年度に於て舊郡役所廳舍に移轉することになり現在の紺屋町なる土地三百四十二坪九台一勺並に建物四棟建坪百十八坪三合二勺、三萬七千五百六十圓賣却し尚は八千圓を計上して縣會に提案した

不作と米價安で
米の出荷澁る
去年に比らべて約半分
石城地方の昨今

石城郡地方に於ける昨今の産米移出狀態は新米出廻り期に入つても依然として緩慢をたどりこれを前年よりも見るに約半數にも滿たぬ有樣であるがこの原因は勿論作柄不良にもよるがこれ相まつて仕向地安と産米不評判の聲に買はぬ買はぬ强張合ひの表面であるが、其の實米商連の內面は買手欲しさにちれきつて居る始末で故にこのまゝ品種改良をはからず自覺するところなければ當然今後數年を出でず需要地がなくなるのは確實であらうと嘆じてゐる向きもありこれは當地方にとつて全くの死活問題で各關係者は非常に重視しこれが復活方法に腐心してゐるが結局は品種改良によるの外救濟策はないものと見られてゐる、尚新米地方買入れ値は二十一圓臺で移出三等玄米は漸次安をとなへ二十日以來二十八圓六十五錢保合ひであつたが二十三日二十八圓二十五錢で四十錢落ちとなつた

和解條件に基き
神谷村長辭職
木村助役も運命を共に
後任は佐藤氏に

石城郡神谷村長村長辭任問題、永い間紛糾を續け高岡八議士の調停で長村長は多年村治の功績があつたとふので御大典終了後まで就任せしむる事とし、兎に角一段落を告げて無事解決を見たが長村長は御大典を終了したので二十六日辭任することに決定したが、是と同時に同村の助役木村要次郎氏は村長と行動を共にする爲め辭職する旨を發表し二十四日辭表を村長の手許まで提出したが、後任村長には元消防組頭佐藤久三郎氏が就任することに調停際決定してゐるので當然佐藤氏が就任するものと觀られてゐる

消防の基金
入遠野組合完納

植田署では曩に縣消防協會基本金増成に伴ふ割當額を各町村消防組頭會議を開き分擔額を決定し極力増成中であるがこの內入遠野消防組は二十日早くも負擔二百三十六圓の應募を了して完納した

詩『麥蒔』
小川郷　吉岡獨步

眞ツ裸で
犂を握る息子
暑さに喘ぐ
耕馬の汗
親爺の鍬から
陽炎がチラ〱
肥料を配る
種を卸す
土をかける
日がな一んち
おんなじ課程を繰返して
來年の糧を作るんだ
萬遍なく輝く
十一月の陽光
これで
日が永けりやとは
誰もが
期せざる慾望だ

資金融通
縣に交渉運動

石城郡勿來町では各種公共團体の積立金を平銀行植田支店に預金してその額數萬圓に達してゐたが同銀行休業のため殆んどそれ等資

戀人の別れ（上）
水竹　悅夫

廣い廣い田圃の中に一つ塚がある、それを土地の人は茶天王塚と呼んで居る。そのそばに、此の土地には珍らしい程の大きな一本杉がぬうと立つて居る下に大きな御影石が三つ四つ橫になつて居る。

御影石にこしを下して先程から話をして居る若い二人があつた。

「ね、喜美子さんまだ時間も澤山ありますで海岸の方でも行つてみましよね」

「え、それもいゝわね此の土地も今日かぎりですね、どこへ行つて見るわ、あすは早遠はなれた所あすから二人で樂しく語り合ふ事が出來ないはね、お便りを『きい待つて居りますわ』

「わ、非道くなくおこすかね君」返事下さいよ」

二人は立上つて田圃道を歩き出した。

彼等の行くのを待つて居たように入れちがいに一羽の烏が飛んで來て杉の木にとまつた。かなたかしこに自分の姿のかくれる程の稻を背負つて行く農夫の姿が見いた。

二人は道をかへて細道を下の方へ下りて行く踏切を越して間もなく海岸へ出る、夕暮れ時人の影さいも見受けられなかつた、

「喜美子さんずい分つかれたでしよね」

「わ、すこし」

「では救護班有つた所へ行つて休みませう」

そこへ行くのに一すぢの川が流れて居る。水は淺いが大きな石のじやまになつて居る。川の中には枕程の石が多く數つて居た。一人が石の上をあるき初めた

S夫は少さな荷物をかゝへてよろ〱して居たが

「おゝあぶなかつた、危ふく落ちる所だつたよ」

「そう私も足袋の先を一寸ぬらしたよ」

「さあ手を引いてわたらうよ」

二つの手は結ばつて向岸へわたる事が出來た、

「いつても此の川が邪魔するね」

「全くだよ」

白い砂の上を一寸[illegible]救護班のあつた小高い岩の頭の上に出た

講談　幕末維新　狂怒亂心（98）
[illegible]　獸禪作　[illegible]畫

やアがつたせ、ちやア梅の方はどうする」

「斷つてくださいな」

「わッ、何だと！」

「私を無理に思ひ切らせて奉公に出したんでせう、して見ると私は梅さんとは他人です。他人の梅さんなら生きてゐようが死んでゐようが、私に關り合がないぢやアありませんか」

「う、奴ッ、よくも……」

「斷つてください、私はいやです」

「………」

音は口をもぐ〱させて息ざし荒く眼をいからしてヂッと娘を睨みつけてゐたが堅く握りつめた拳の先からぶる〱とふるひ出してそれが全身に波動すると勘忍袋の紐がぷッつと切れた

「やいッ！此の親不孝奴！よくも奴ア變心しやアがつたな、エッ、そんなこッて梅、梅に濟むと思ひやがるかッ」

ぴたり、ばた〱ッ、突然お君を曳倒して肉も碎けよと打据へた。その響の下にわつといふ泣聲。

途端に襖がさつとあいた

「アレ、何を爲さいますッ」

慌だしく駈込んだのが雪江である

玄關の一室に居合せた與平は、その雪江の叫聲を聞くと電氣に彈き返されたやうにむつくと躍り揚つて襖の隙間からきよろした眼に覗き込んだ。

雪江は急いで揮上げた腕にすがつた。すがられた音五郎は勢ひ込んでそれを突放さうとして、ふいと其の顏を見たが、急に力がなくなつたやうに、握つた拳で雪江

「あなた」[illegible]

「エッ、打棄つといてお呉んなせい、こ、こ、こんな奴は殺しても足りやアしねえんでげす、ヘイ、打棄らかしてお呉んなせね」と口先ばかり强がりを言つて居る

「だ止しなすつてくださいよ、そんな手荒なことを爲さらなくとも[illegible]仰つたつて道理が解るではございませんか」

と雪江はしなやかな身を投げかけるやうにして

「まア、下に坐てくださいよ」と推しつけると、たぢ〱と後退りして、動乎とあぐらをかいて了つた。

お君は左の肱を疊に落して橫に體をくづしたなりに袂を顏へ宛にて潜々と啼いてゐる。島田は根が拔けてがつくり

「エヤア、こりや驚いた！

突然後に聲がして襖をがらりと躍り込んだのが與平であつた。

「雪江さま、阿孃は當家にゐらつしやるのか、何てわこつた。まア俺ア呆れて物が言ねね」

「おや、與平かい」

と雪江はハッと當惑したが、今さら逃隱れも能れず

「濟まないのねね、た前にもいかにもきまりが惡さは……」

「濟むの濟まないのちやアございませんやな、こんな所に居なさると知つたならそつちこつちと駈摺廻つて武さやしねえのに、まるで狐にばかされた飛脚もよろしく、鎌倉くんだりまでノソ〱までつかせられた[illegible]も補りやしねね、眞實おやありませんせ、眞實に……一體全體、ど、どうした表裏の瓢簞からあんな人騒がせをなすつたんでげす」

と與平はつぶやいて

「まア、よかつた、是で私も五兩の御褒美にありつく譯だ、有難い〱」と胸を撫下す。

廣告
都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むきは品質本位の正札堂

甲乙の社員が或る會社のテーブルを圍んで

甲「いや君此の頃の不景氣には困つたね……」
乙「ウーン全く困るね、銀行は閉門だし」
甲「時に君馬鹿に良い洋服をおごつたじやないか、何處で新調したんだね色も素敵だなあ、生地も」
乙「ウーンこれか、それ君も知つてゐる正札堂さ」
甲「あアー停車場通りの
乙「そーだ兎に角正札堂は平町で一番評判わいひからね……」
甲「全くだよ……評判のよひ事驚くね、どうしてだらう」
乙「それは君都々逸に「洋服は品質本位の正札堂が着よく丈夫で誰も好く」とある樣に品が良く價が安いからだよ」
甲「成る程君は素敵な都々逸を知つてゐるね」
乙「マアー洋服は正札堂に限るよ、アハハ、、、、
甲「アハハ、、、、、

正札堂

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

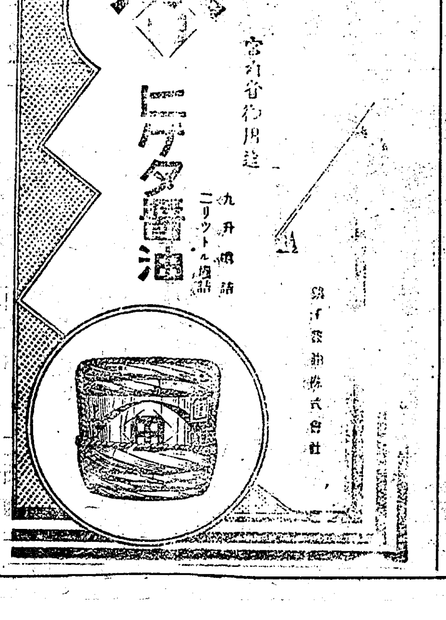
貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所　電話六〇三番　五四一番

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

青麻山中風靈藥
定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店　平町五丁目角　山野邊藥局



特約店　廣瀬支店　平町田町　電話五四番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋　(久)釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

平町紺屋町
吉田眼科醫院

內臟外科　骨關節外科　整形外科　產科　婦人科
專門　藤本順
院長　木村寅次郎

外科　婦人科
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

暮れ氣分を湧かすボーナスの噂
不景氣を知らぬお役所の惠比壽顏

年々年の瀬も近づき例年ならば歳出の大賣の末して不景氣だとは言ひながら相當の活氣を見せてゐた平地方も平銀行の休業發表以來極度の不況に襲はれてゐる、歳晩に入ると何よりもサラリーマンを喜ばせるボーナスの噂さ話がストーブ會議に時ならぬ花を咲かせてゐたものが今年はどうした譯かボーナスのボの字さへ口にする者ないと言ふ有樣で全く慘めな狀態であるが流石に時は爭はれないもので今日あたりの平町商街はサラリーマンの妻君連とも見へる人々が呉服屋さんや洋品店の飾窓に足を止めてゐる姿がポツ〳〵見へる御亭主さんがボーナスを頂戴したら此れもあれもと今の中から胸算段してゐる事か取らぬ狸の皮算段中にある月給取りのボーナス豫想を探つて見ると

△鐵道關係、此處は流石に日本と言ふ大きな世帶を背負つてゐるだけに不景氣なんか何んのそのさ月の十五日になると八百を數へる平町の鐵道從業員全部に折目も付かない手の切れるやうな札が舞込む譯で先ず當地方では第一位、長壬任級が二ケ月分、雇級が一ケ月半、傭人級が一ケ月內外は確實だらう

△郵便局關係、此處は年四回の賞與に幾分の割增がある程度

△其の他の官廳裁判所稅務署は例年の割から押して平均二ケ月半位になら上等

次ぎには會社方面だが戰前戰後の黄金時代には役人共を羨延せしめた炭礦方面は會社が立つか立たないかの瀬戸ぎはだと言ふ昨今ボーナスの噂でも仕樣もならぬ明日から出勤に及ばないとも言はれそうな悲慘さ其の他の會社や銀行筋は言ふだけ野暮、で先ず去年位いまで濟ぎ付られる會社があつたら上の部であらうとの觀測である

電柱倒れて感電死
川前の山道で

石城郡川前村地內國有林山道の高壓線に觸れ二十三日朝八時頃黑焦となつて即死してゐる者のあるを通行人が發見所轄小野新町署に斯くと屆出た、檢視の結果同村大字下桶賣字五味澤柳澤傳吉(五〇)と判明し原因は二十二日夜八時頃所用からの歸途同地に差しかゝつた際電柱が倒れてゐるのを知らずに通りかゝり右の災厄にあつたものである

事情はお察しするが如何とも策なし
月末に迫る納期を前に細目庶務課長の談

平銀行休業により納稅方面に及ぼす直接、間接の影響は極めて甚大なるべきものあり伏見平町長よりも平稅務署に對し事情を具して特別猶餘を請願した旨既報の如くであるが今月末日に迫

國稅即ち營業收益稅の資本利子稅並に畑雜地稅は平町分のみにて一萬四百餘圓に達し之れに

縣稅町稅を加へるときは然かも相當の金額に達してゐる、即ち之れ等大部分の納稅組合貯金は平町に於て九十九組中三十八組が平銀行に預金してあり其の最も多きは八千三百五十圓を筆頭に總額三萬二千餘圓に達し目前に迫る稅期を前に一大頓座を來し徵收猶餘其の他の方法に關し平稅務當局に懇請するもの續出の有樣であるが右に關し細目庶務課長の談によれば

「現行制度に於ては之れ等の場合適用すべき法條なく如何とも施す途なく期限內に遲れるときは等しく滯納者として取扱ふ外萬止むなき事情であるから誠に御用惰は申上げるが此の際各納稅者に於て直接納附の方策を講じ從來の納稅成績を維持される樣に希望するものである」云々

全員委員を擧げ戸數割賦課調査
各町分擔の委員決る
けふの平町會

平町では今廿六日午前十時から町會を召集し昭和三年度後期特別稅戸數割賦課額の決定四萬七千六百六十二圓五十錢賦課人員は四千六百五十人で前期に比し十八人の增加で內容の調査は全員を委員とし全員委員會は明廿七日午後一時から召集する事となつたが擔當區分は左の如くである

第一區新町、長橋、研町、古鍛冶、材木町、紺屋町、才槌小路、委員は佐藤芳松、加納五郎曾川卯三郎、阿部太平、吉田五平、遠藤林松

第二區本町一、二、三、四、五町目、大工町、舊城跡、委員は青沼鉐太郎、柏原愼吾、井上茂作、阿部唯次郎、星野淸吉、應崎貞衛、渡邊貫一、大谷久藏

第三區鍛冶町、南町、新川町、月見町、堤の內、鎌田町、委員は荒川淺次郎、松崎菊三郎、佐藤岩藏、萩原義雄、諸橋國松、吉田定太郎

△第四區田町、南白銀、北白銀、鐵道官舍、仲間町、北目、胡摩澤、久保町、八幡小路、委員は岩本重雄、櫻井淸、森本啓一、野崎萬藏、永山芳太郎、佐々木龍君、花澤久一郎

△火葬場新設に依る管理規定は町提出草案は委員附託となる(以上)

鮫川鮭視察
水產試驗場から

石城郡錦村鮫川鮭繁殖組合の鮭漁況視察のため廿五日小名濱水產試驗場より飛塚場長外場員一同來植する筈で山崎組合長及植田町富岡副組合長等準備中である

蜂谷柿好評
郡南方面で搬出

石城郡上遠野村大字瀧を中心に隣村山田、田人村より產出する磐城名產蜂谷柿は京阪及京濱地方で逐年需要者を增し名聲を博してゐる上遠野村では出荷組合を設置村農會應援の上に植田町植田運送會社と共力從來の荷造りに依る莫大な損失を取返すべく大改良を加へてゐるが昨年植田驛扱ひ十一月中二十車の處本年度は既に二十餘車搬出してをり全量では悠々三十五車は出荷を見る勢ひで從來比較的等閑視されてゐた副業柿栽培が一般に重要視さるゝに到つたが收益案外に多額に上つてゐるので益々自發的な獎勵が行はれてゐる

片や昭和座に對抗し別に劇場を新築
玆にも政爭の弊が
結局は共倒れか

石城郡地方における政治運動は縣內に於ても最も猛烈を極めて居るが石城郡內鄕村における磐城座は從來殆んど政友會の獨專的傾向があり從つて民政黨の集會等については同座の使用を絕對拒まぬと云ふ狀態にあつたので同方面における民政黨の中堅と目される連中が發起となり黨員がそれ〴〵醵金し工費一萬二千圓を以て內鄕村字高坂地內に昭和館を建設ししこの程漸く出來上がつた今度は政友會側では更に對策を講じ民政黨の昭和館の向ふを張り新・磐城劇場を新築する事となり竣工の上は同村における一切の興業を買收して昭和館の興業を絕無ならしめんとの策を講じつゝあるとの事で今後の成行に就ては非常に注目されて居るが結局は共倒れの悲運に泣くではないかと見られてゐる

役員就任
鈴木 古川
今期縣會に際し

本郡選出縣會議員鈴木辰三郎氏は廿四日から開會した今期縣會に當り政友派院內總務となり同じく縣會議員古川傳一氏は政務調査會副會長に就任した

自治資料展覽會
入賞の町村名

町村長會石城支會主催自治資料展覽會は去る廿三日來非常な好成績を收めてゐたが出品物審査の結果入賞した出品物は次の如くである

△平町出品事務報告書、白米一升月次時價比較條例規定、本籍寄留人に及戶數比較、平町玄米一石比較相場、平町交通運輸出勤簿、町會議案

△草野村出品公用封筒草野村誌村勢

△赤井村出品赤井通報

△磐崎村、村の燈

△下小川村組合出品現行條例規定

△小名濱町出品我町の統計

△平窪村出品特別戶數割賦課額決定

△飯野村出品村會議案

△好間村出品歲入日報納稅袋、勤儉貯金申合事項軍人名譽錄、上好間森林組合事績、二十ケ年兒童と經費比較

△江名町出品町大聲

△大浦村出品基本財產芳名錄△神谷村出品村誌

△夏井村出品村民の栞諸條例

△入遠野村出品納稅袋

△內鄕村豫算綴表

△植田町出品植田町勢

△四倉町出品町有林經營事跡

平驛前で大立廻り
阿部と稻田が

石城郡泉村阿部正晏並に茨城縣久慈郡太田町稻田農太郎との間に起つた小名濱町及び玉川村の土地所有權並に小作料問題で兩者の間に告訴を爲し目下係爭中の旨既報したが去る二十四日午前四時平驛着列車で稻田が下車した所を折柄待ち構へてゐた阿部、稻圓外一名の者が驛頭に於て口論を始めさては大立廻りを爲したので平署員がかけつけて取押へ本署に引致の上說諭を爲した

三方部に分れて平小線奪取運動
湯本、綴の起點爭ひと片濱町村の結束

平小鐵道は來る昭和六年度から三箇年繼續事業として着工されることに決してゐるが平町及び附近村落は同鐵道の開通により、發展產業の開發さるゝことが甚大なので片濱方部ではすでに敷設豫定線の變更について數度その筋に對し陳情してゐるが同方部の運動は平町を起點とし飯野、高久、夏井、豐間を迂回して小名濱町に至るもので本省に於てかく變更するやう內定した模樣ですると傳へられて居るが豫定線と見られてゐた內鄕、玉川、鹿島方部では前記迂回線說が出たので俄かに運動を起し湯本町では去る二十四日秘密裡に關係者が會合して湯本驛を起點とするやう運動を起すこゝなりまた、內鄕村ではこれまた綴、驛起點の猛運動を起すことになつたが今後三方部が鼎立して大奪取戰を開始することゝなりその成行きは注目されて居る

可愛イ娘や何處
若しや男の後を逐つて平署へ淚の願ひ

岩手縣東磐井郡野澤村赤池松吉長女サツ(三二)は去る十八日突然家出行方を晦ましたので家人は八方搜査中であるが昨年中から同村に居住してゐた石城郡赤井村生れ志賀常吉(三二)とかねてから情を通じてゐた事を家人に發見された事が家出の原因であるらしく常吉は去月中歸鄕したので若しや男の後を追つて來たのではないかと今廿六日實父松吉がサツの行方搜査方を平署へ願出た

研究講座
塞がぬ圍爐裡
染井二郎

歲時記や俳句の季題を目にすると「爐開き」「ろ塞ぎ」や「爐の名殘り」などとあるが、寒い私の鄕國—東北地方の爐は年から年中開き通しである、從つて未來永劫塞ぐことはあるまい、もつとも春暖につれて塞ぐことのあるは座敷や茶室の一部だけである、だから私等は「爐開き」や「爐の名殘り」といつたやうな特殊な季題趣味を知らない

都會では爐は有閑階級に持てはやされてゐるやうだが、北國の圍爐裡は日常生活に缺くべからざるものである、その爐と自在鍵と鐵瓶の如何によつて、其家庭の貧富から主婦の人となりが判る……といふ程左樣に重んぜられ、女等は自在鍵の埃、爐緣の汚れ、鐵瓶の艶の無いことを家庭の恥だと思つてゐる。

永く都會に住んでゐる身に、懐しく思ふものは北國の山容水態よりも此圍爐裡である、これからは別けても其傍が戀しい、霰が窓を打つ夕べ、鮭を炙、雷魚を燒くのも此處だ、榾火の燃えさかる中に栗や芋を燒くのも此處だ、勸めから歸つては其日の面白い話を交はすのも此處だ、さうして明日の仕事に首を傾けて考へるのもさては若い男女がひそかに戀を語るのも……みんな此處である。

「昔々大江山の酒呑童子といふ鬼が」などゝた伽話を其爐端で聞かされたり、綺麗にしてある灰の中へ火箸で繪や文字を書いて叱られたりした子供の頃もなつかしい、母はもとより昔氣質の人で、なか〳〵やかましかつた「灰ならし」も火箸も自在鍵の金具と同樣にピカ〳〵と磨かれ何時も其置場にキチンと整へられたものだ

灰ならしと火箸……といへば、私の鄕里の俗謠(秋田音頭)に、其の文句は忘れたが

「俺れ家の親父が喧嘩をする時火箸と灰ならし……」

といつたやうなのがある。無論この時の喧嘩は對外的のもので無くて痴話たらでも夫婦がやりはじめた光景を唄つたものらしいが、そこにも何となく爐ほとりを偲ばせるじやないか

壹處の圍爐裡は何處の家でも一番に大きい、その一隅には何れも銅壺が埋められてゐる、その湯のたぎる中に鷄卵を入れ茹でゝ食ふのは下戶、これに德利(た銚子と云はない方が却てふさはしい)を挿込んで燗の加減を見るのは左り黨、かくして默々平たる圍爐裡は淸濁併せ收めて、自から靜中に動あり、動中に靜がある

先頃死んだ露月先生の古い句に

白馬馬に非ずと
いへば栗はねぬ

といふ句があつた、前書は無いやうだつたが無論爐端の即興句で、若い者等が爐を圍んで議論を闘はしてゐる光景である「モツペ」姿の若い者が夜長のつれ〴〵に村政を談じ自治を語つてゐる處へだしぬけに燒き栗が跳た譯で面白い句である

雪が降るころになると圍ろ裡の上に炬燵櫓が運ばれる、北國の家庭團欒は圍ろ裡と炬燵が最もよい道具だ、が更にその炬燵櫓の上に杯盤を載せ雪の音を聽きながらチビリ〳〵酒盃を交すのも興趣がある……定めし今頃は炭火が盛んなことであらう。

知事の感謝狀

縣主催動力農具實演會は二十四日より平町元郡會議室東隣に開催されたが動力農具出演者百餘名に對し加勢知事より感謝狀を贈つた

かみなり

◆花香が或人にたのんで平にちなむ大津繪節をつくつてもらつて平名物として大いに宣傳するんだとは好い心がけだ、アタイ鄕土俚謠として平大津繪を流行らせたいと思つてるのよ、大津繪は英語で大ステッキと言ひますとはコイツ中々學者だな◆待合が公認されたらドレもコレも待合の看板をあげる、サテこうなると淫賣屋のように思はれて、ドウモお前の家に來るのが氣が引けて困るとヒイキのお客からは言はれるそれで又元の料理屋に逆戾りをしようとするだろうとの事

預金の賣買を致します
▽賣買の手續は無料で致します
平町仲田町
(ト) 駒場株式店
電話四六五番

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器 八〇、〇〇
撮影器 六五、〇〇
フヒルム 一本 二、〇〇 二、五〇
生フヒルム 一本 一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタログ進呈
平町二丁目
パテーベビー代理店
西村屋藥舖
長電話三番

寒サ愈々迫ル
新柄防寒具種々入荷致シマシタ
子供洋服 三圓より
子供ラシャオーバー 五圓より
婦人ショール 二圓より
婦人毛シャツ 二圓より
毛アンダー 二圓五十錢より
コットンシャツ 二圓二十錢より
壹圓均一ノ特價
ワイシャツ賣切レヌ中ニ
ツルヤ商店
平町四 電話百四十番

支那料理開店
華香ランチ……五十錢
御土產……
シウマイ折詰……五十錢
定食……壹圓より參圓迄
其他大勉强致し遠近に不拘卽席御求めに應じます
南町舊郡役所通り(中の湯向ひ)
華香亭
電話(呼出)八二五番

松島名產
カキ貝御料理
カキフライ
カキなべ
ス貝
品々
洋式宴會仕出し
平田町
一の井
電一六七番